

様式第4号（第9条関係）

令和 6年10月29日

小野市議会議長 高坂 純子様

派遣議員 掘井 ひさ代

### 議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

#### 記

#### 1 派遣日

令和6年10月17日（木）・18日（金）

#### 2 派遣議員

掘井 ひさ代・山本 麻貴子・宮脇 健一

村本 洋子 ・喜始 真吾・平田 真実 ・河島 三奈

前田 光教 ・小林 千津子

#### 3 派遣先

アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）

#### 4 内容

第86回 全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり

～市民の一生に寄り添う都市政策～

10月17日（木）9：50～16：30

【基調講演】 生物学者、青山学院大学教授 福岡 伸一

生命を捉えなおす - 動的平衡の視点から -

動的平衡とは・・・作ることも、壊すことが優先。変わらないために変わり続ける分解と合成の絶え間ない均衡  
・代替・柔軟・可変・回復・修復

- ・ 創ることよりも壊すことを優先している  
(エントリピー増大則の「先回り」)
  - ・ 生命現象では、あらゆるものが、壊されることを予定されて創られている。
- \*まちづくりも、壊れる前に対処する。又、未来を見据えたまちづくりをすることが重要。(人口減等)

【主報告】 姫路市長 清元 秀泰

市民の「LIFE」(命・暮らし・一生)を守り支える  
姫路の健康づくりとまちづくり

人生100年時代の到来へ ～健康づくりの重要性～

市政の基本方針・・・市民の「LIFE」(命・暮らし・一生)を守り  
支える健康増進に向けた施策を積極的に展開

- 1) 日本の平均寿命・・・男性81.56歳・女性87.71歳(2020年)
- 2) 姫路市の健康寿命・・・ 平均寿命と健康寿命の差  
男性 1.26歳 女性 2.64歳  
女性は男性の2倍以上「不健康な期間」  
が長い
- 3) 健康とは・・・ 単に長寿であるだけでなく、健康寿命を延伸

## させる事が重要

4) 健康がまちの活力を生み出す・・・地域活動や就労などを通じて、生きがいの創出や地域経済の活性化などが期待できる。また、積極的に健康づくりに取り組むことで、介護予防や病気の発症・重症化予防につながり、その結果、社会保障負担が軽減される。

### 健康づくりに資する姫路市の取組み

#### (1) 市民による主体的な介護予防を促進

##### 1. 軽度認知障害（MCI）等の予防支援

###### 「通いの場」への促進

- ・いきいき百歳体操
- ・MCI等の把握・予防支援のため、チェックリストによるセルフチェックを実施
- ・コグニサイズを主体とした予防プログラム実施

##### 2. 生活習慣の改善ならびに各種疾患の早期発見及び重症化予防

- ・生活習慣病について知識・情報の発信
- ・面接・訪問・電話等で心や身体の健康についての個別相談
- ・子宮がん検診の受診率向上を図る（20歳から30歳までの2歳刻みで検診費用を無料化）
- ・20歳代の子宮がん検診見受診の方に自己採取HPVキット送付

#### (2) ウォーカブルなまちづくり

2021年 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成に取り組む

\* 公共空間の利活用・歩行者利便増進道路「ほこみち」

歩行者天国でマルシェの出店・憩いの場の設置

\* Himeji 大手前通りイルミネーション

(2023年11月22日～翌年2月29日 77万人来場)

#### (3) ICTを活用した健康づくり

\* マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化

\* 「ひめじポイント」を活用した健康づくりの促進

国民健康保険の特定保健指導や介護支援ボランティア活動等でポイント獲得

(4) 未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援

\* こどもの未来健康支援センター「みらいえ」の開設

「相談」「交流」「学びあう」がコンセプト

\* 子育て情報の発信

・ 子育て応援アプリ「ひめっこ手帳」を活用し、妊婦健康診査や乳幼児健康診査等の記録をデジタル化

・ 最適な予防接種日をプッシュ型で配信

【一般報告】

筑波大学システム情報系教授 谷口 守

生き物から学ぶ健康なまちづくり

都市計画・・・人の暮らしや営みをより良いものとしていく。その中でまちづくりを通じて市民の健康を実現するという「健康まちづくり」の考え方が、近年大きく着目されるようになってきた。

都市計画の問題の変質：人口減少、健康まちづくり、防災、社会資本の劣化、コミュニティ⇒「丸い、柔らかい」生物学的な視点が非常に重要に。

(1) 市民の健康づくりにおけるまちづくりの重要性

\* 経年的な個人の交通行動データから人がどんどん歩かなくなってきていることに強い危惧を感じた。

\* 日常の移動を自動車に依存する都市は、形状自体がメタボ（コンパクトではない）

↓

都市を健全にダイエットすることが、市民の健全なダイエットに繋がる

(2) バイオミメティクス（生物模倣）への展開

「生き物」も「都市」も

- ・ 成長する、命をつなぐ・活動するための状態を維持しようとする
- ・ 新陳代謝する・病気になる、怪我もする・老化する
- ・ 成人病もある（肥満も）・擬態する・ゾンビ化する・性別がある
- ・ 多様性が大切・免疫 up、治癒、再生する・そして進化する

### （３）都市は病気？

1. 循環不全 各市町村は自分の行政区域の中だけを見て最な計画を作成！相互に関連性のない計画！

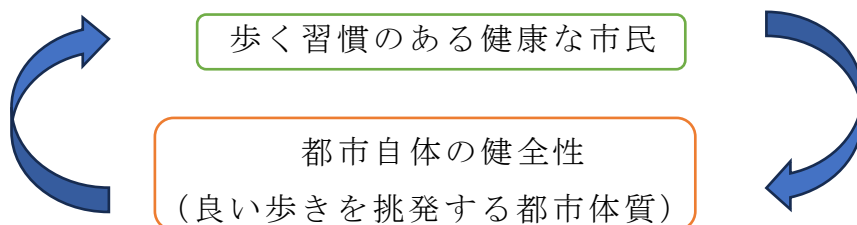
2. 肥満 人口の規模に応じ、公共交通と歩ける範囲でコンパクトに展開するというのがこれからの健康まちづくりの基本。

3. 骨粗しょう症 空き家や空き地が増え、中がカスカスになっていく。

4. がん

競争から協調へ

人口の取り合いなど不毛で疲弊を招く競争をするのではなく、周囲と協調しながら都市構造の体質改善を図っていくことが、現在の各市町村に求められている健康まちづくりの本質。



この循環が「健康まちづくり」の基本

【一般報告】

千葉県流山市長

井崎 義治

都市そのものを健康にするまちづくり

～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

流山市の「健康都市」

健康都市とは・・・健康を個人の責任としてのみとらえるのではなく「都市そのものを健康にすること」を提唱（WHO）

流山市では・・・全ての政策分野に「健康」を考慮した政策を形成し、健康都市を実現する

- ・平成19年1月1日 健康都市宣言
- ・平成20年3月 健康都市連合日本支部加入

取り組み

(1) 駅前送迎保育ステーション（流山おおたかの森駅・南流山駅）

\*各送迎保育ステーションと市内の指定保育所（園）を、安心・安全のバスで結び登園、降園するシステム

(2) 要配慮児童等の保育園への受入拡充

\*要配慮児童保育コンシェルジュによる事前面談を行い、入所園と児童情報を共有

(3) グリーンチェーン認定制度

\*失う緑を少しでも回復し、環境価値・景観価値を高める

【一般報告】

兵庫県立大学副学長

畑 豊

IT/AIの健康分野への適用例

～姫路市の健康データ解析と歌唱による誤嚥予防～

検診データをファジィ値（1～0の実数値）へ返還

人間ドック学会の判定基準	⇒	ファジィメンバーシップ関数
区分A・・・異常なし	⇒	1
区分B・・・軽度の異常あり	⇒	0.5～1
区分C・・・経過観察が必要	⇒	0～0.5
区分D・・・治療や再検査が必要	⇒	0

〔対象となる検査項目〕

- ・BMI
- ・収縮期血圧（SBP）
- ・拡張期血圧（DBP）

- ・ T G (中性脂肪)      ・ H D L (H D L コレステロール)
- ・ L D L (L D L コレステロール) ・ G O T      ・ G P T
- ・ G G T (γ - G P T) ・ 尿酸 (U A) ・ クレアチニン (C R E)
- ・ ヘモグロビン A I c (H b A I c)

\*各検査値をファジィ値に変換する。指数の範囲は 0.0 から 1.0 のファジィ値であり、数値が 1.0 に近づくほど、健康状態が良好。

### A I による嚥下解析とその歌唱による誤嚥への挑戦

「誤嚥性肺炎に関する数値」

- ・肺炎患者の約 7 割は 75 歳以上の高齢者。高齢者の肺炎の内 7 割以上が誤嚥性肺炎と思われる。
- ・ 65 歳以上の高齢者の約 1,000 万人が嚥下障害
- ・日本人の死因の第 6 位は誤嚥性肺炎と思われ、年間約 6 万人が誤嚥性肺炎でなくなっている。

誤嚥を防止したい    =    嚥下の力を維持したい

どうすれば良いのか？

喉の筋肉を鍛える。



歌唱（カラオケ）が良いのではないかな？



歌唱者と非歌唱者で統計分析

\*嚥下機能評価のスクリーニングとして、最も簡便な方法は RSST

\*歌唱者は非歌唱者より統計的に有意で、歌唱が嚥下機能向上に効果的である。

10月18日（金） 9：30～11：50

パネルディスカッション

【テーマ】健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～

【コーディネーター】 中央大学法学部教授 宮本 太郎

【パネリスト】 高岡病院児童精神科医 三木 崇弘

NPO法人日本栄養パトネット理事長 奥村 圭子

長野県茅野市長 今井 敦

大阪府泉大津市長 南出 賢一

【課題】 急速に高まる市民の健康への関心 宮本 太郎氏

「背景」・コロナ禍により健康関心（34.9%増）が高まった

・自治体における行政・市民連携による健康政策の新たな展開

「内容」

- 1) 健康政策の新たな課題設定
- 2) 市民の健康問題との新たな接点、まちづくりとの連携
- 3) 健康と医療の多様な資源をICTデータと社会インフラで連携

『心理社会面から見た子どもの健康』 三木 崇弘氏

子どもとは

・未来のおとな ・未来のまちの構成員 ・未来のまちに貢献する人・

未来のまちをつくるひと ・未来の市民をピアで助ける市民

現在の子どもたちは不健康か？ （心理社会的な健康）

（不健康） ・不登校が増加 ・自傷、自殺も増加

（背景） 「不適切な行動や表現」が許容されにくい社会がある。

SNSで拡散・炎上・大人も子どもも息苦しい社会

まち、コミュニティ、ひと

いま、地域で子供たちが安心して暮らしていけるまちづくりが求められている。幼少期からの体験は人の価値観形成に大きな影響を与える。

「子育て支援が充実している自治体」というイメージは、1つの安心感の提供になる。



『食を切り口とした1人1人の望む暮らしを支援する

栄養パトロール事業』

奥村 圭子氏

栄養パトロールの目的・・・健康寿命を延伸することで医療依存度を高めないようにすること。

- ・ 本人の夢や希望を支援するための栄養介入
- ・ 要支援者を適材適所の関連機関に繋げる「リンクワーカー」の役割

未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築

今井 敦氏

茅野市・・・湯治場、静養地として栄えた歴史のある町

\* 地域包括ケアシステムの構築

平成8年・・・市民団体「茅野氏の21世紀の福祉を創る会」発足

平成11年・・・地域包括ケアシステム構築

\* 人口減少・超高齢化の進展と「若者に選ばれるまち」

令和2年に制定した第2次茅野氏地域創生総合戦略で

『若者に選ばれるまち』を宣言

\* 国家戦略特区への挑戦

データとデジタル技術の活用

国家戦略特区の「スーパーシティ構想」にエントリー

\* 「健康」を軸にした未来型「ゆい」の創造

「人の健康」「社会インフラの健康」「データーの健康」

未来型「ゆい」の創造



誰もが健康で働き続けるために・・・ 人の健康

「小児オンライン相談サービス」

「タクシー等による医療品の効率的配送」

私たちの暮らしがいつまでも・・・ 社会インフラの健康

安全で便利であるために

## 「R4. 予約制 AI 乗合オンデマンド交通「のらぎあ」導入

自分のデータを安全に社会の・・・ データの健康  
発展に役立てるために

「未病予防対策先進都市」をめざした

「官民連携」「市民共創」のまちづくり 南出 賢一氏

健康づく推進条例 4 つの柱

### \* 健康に関する学びの場の充実

- ・女性特有の健康課題の改善に向けた「健康力向上プロジェクト」

### \* 食育の推進（医療同源）

- ・小中学校の給食の米は金芽米加工（ビタミン B・食物繊維等の栄養素を多く残す精米方法）

### \* 健康状態の見える化

- ・健康チェックを常設・定期・出張し「健康状態の見える化」
- ・ポイントアプリ「いずみおおつマイ・レコ」を導入

### \* 健康や医療に関する多様な選択肢づくり

- ・「官民連携」「市民共創」
- ・足を整える「あしゆびプロジェクト」
- ・認知症予防・改善のための「認知症予防ダンス」

## 【所感】

今回の「全国都市問題会議」は「これまでの健康づくり政策はいかなるインパクトをもたらせてきたのか」「住民の健康づくりに対して自治体が果たすべき役割はなにか」「住民の健康づくり政策は今後どう展開されるべきなのか」という 3 つのテーマに焦点を当てて論じられました。

「人生 100 年時代」の到来により「健康寿命」を延伸することが重要となっていており、姫路市では、軽度認知障害（MCI）の予防支援、生活習慣病の早期発見・重症化予防、姫路城を中心とした「ウォーカブルなまちづくり」に取り組まれている。また、ICT を活用した健康づくりでは、救急業務の迅速化・円滑化にマイナンバーカードを活用されており

小野市でも実施できれば、今後の高齢化社会には有効だと感じました。

谷口守教授の「生物から学ぶ健康なまちづくり」では、人がどんどん歩かなくなっている。これからは、都市構造の体質改善をはかり「良い歩きを挑発する都市体質」「歩く習慣のある健康な市民」を各市町村が競争ではなく協調しながら健康なまちづくりに取り組むことが大切。

小野市は車社会であり歩く習慣をつけることは重要であると思います。

各地区で、歩きたくなるまちづくり、イベントを実施していきたい。

井崎義治流山市長の「都市そのものを健康にするまちづくり」では、全ての政策分野に「健康」を考慮されている。福祉・教育分野では「子育て環境の充実・長寿社会対応のまちづくり」を策定されており「駅前送迎保育ステーション」「要配慮児童等の保育園の受入れ拡充」に取り組まれている。「要配慮児童保育コンシェルジュ」の設置により保護者や保育園から安心感が生まれたとの感想があり、流山市は子育てがしやすいまちであると思う市民の割合が令和5年度は87.3%になった。また、緑豊かなまちづくりにも取り組まれていて人口減に繋がるのではないかと感じました。

畑豊教授の「IT/AIの健康分野への適用例」では、健診データの各検査項目を0～1のファジィ値に変換したことで日本人全体の健診基準を用いた健康状態を観察することが出来ます。健診結果をみると、様々な数値で表されていますが、0～1の数字であれば一目瞭然でとても分かり易いと思います。また、嚥下防止にはカラオケが良いとの分析もとても興味深い話でした。

パネルディスカッションでは、「人生100年時代」をふまえ、子どもから大人まで老若男女問わず「元気人口」を増やし、誰一人取り残さない社会の構築が重要であります。そして、官民の連携により「健康づくりとまちづくり」に取り組むことを提唱されていました。

小野市においても、少子高齢化が進んでおり、市と市民がお互いに協力し「心身ともに健康に暮らせるまちづくり」に取り組んでいきたいと感じました。